



荒川 栄悦 議員
(清風会)

広域経済圏及び広域連携に

ついての具体的構想は

一問一答
方式

問 横断道の開通や、立丸峠のトンネル化といった遠野を取り巻く道路網の整備完了が見えてきたが、遠野市総合計画にある広域経済圏及び広域連携の具体的構想は。

答 遠野の地勢的、地理的、歴史的、文化的、産業的な役割や機能にも濃淡がある。色々な場面で、市民がそれぞれの立つ位置において取り組んできた中に、この広域経済圏や広域連携の在り方が模索されてきた歴史が

ある。その一つの表れが、今般の大震災被害に対して、遠野の役割として、市民の理解のもと「後方支援」として示すことが出来たのではないかと思う。また震災前に定めたものだが、市総合計画に、「100年の縁を次の100年の絆に」という言葉がある。それは、交通網の整備を視野にいれた、観光振興、企業誘致や内発型の起業、地場産品の振興等を図ることを示している。さらに、多様な人的交流や物的交流のネットワークを促進することを狙いとしている。

過型にするつもりもない。そのためにも「遠野市の魅力」を高めることが大事である。中心市街地の活性化、柏木平レイクリゾートの再生、水光園の芸能館整備等々様々な対策や整備をしてきた。ソフト面でも遠野の文化、風土というものをさらに発信するよう努める。また、JRの企画で平成25年の秋にSLが盛岡釜石間を土日祝祭日に運行することが決定した。これを機に、宮澤賢治ゆかりの銀河鉄道も検討し、メガネ橋周辺も観光ゾーンで多様なイベント

トを展開していきたい。また、遠野駅から昔話村までの観光客の動線を、中心市街地活性化の面から取り組んでいきたい。そのために、中心市街地活性化市民懇談会を設置し、庁内に調整チームを設置する。また、空き家、空地の調査をし、フアザード事業を含めた景観条例の制定に取り組むこととしている。さらに、遠野市内の産直についても「魅力」を高めていくことが重要な対策と考え、そのための支援を行っていく。



多彩な催しが期待されるめがね橋近辺

問 ストロー現象や、観光客の素通りへの対策は。

答 遠野市をストロー化させるつもりもなければ、通

ストロー現象や、観光客の素通りへの対応は

※ストロー現象とは
大都市と地方都市間の交通網が整備され、便利になると地方の人口や資本が大都市に吸い寄せられること。